

第12話「会話を気持ちよく終わらせろ」

課題	相手の話が続いて会話がなかなか終わらない
ストラテジー	会話を終わらせたいというサインを出す
効果	・会話を自然に終わらせることができる ・相手を驚かせたり、相手のことを考えないで突然会話を終わらせたという印象を与えないようにすることができる

<課題>

相手の話が続いて会話がなかなか終わらない



スアンは太田に頼まれて花屋に花束を取りに来ました。次の披露宴で使う花束なので、披露宴が始まる前までに花束を持って職場に戻らなければいけません。しかし、花屋の店員との話を終わらせることができません。職場に戻る時間が気になってしょうがないスアンは、強引に会話を終わらせました。

<ストラテジー使用場面>



花 屋： ベトナムといえば、やっぱりさすが有名よね。

スアン： そうですね。あっ、私そろそろ行かないと。

花 屋： あらやだ！ごめんなさい。

ホテル戻らないとよね。

スアン： はい。

<スアンが使ったストラテジー>

会話を終わらせたいというサインを出す



スアンは会話を終わらせるために、「そろそろ行かないと」という表現を使いました。この表現が、会話を終わらせたいというサインとして機能し、花屋の店員も会話を終わらせるのに協力してくれました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、会話をうまく終わらせるストラテジーの一つです。会話の終わりというと、「じゃあ、失礼します」「ではまた」などの別れのあいさつをイメージする人が多いかもしれません。しかし、私たちの会話をよく観察してみると、こうした別れのあいさつの前に、会話を終わらせるサインを出し、それに理解を示して、徐々に会話を終わらせるというプロセスを取っていることがわかります。そのようなプロセスなしに別れのあいさつをすると、突然会話を終わらせた、態度が変わったといった印象を相手に与えてしまいます。

そのため、会話を終わらせたいときは「私は会話を終わらせたいと思っていますよ」というサインを出す必要があります。そのときに「話はもう終わりにしましょう」と直接言うのではなく、スアンのように「そろそろ行かないと」などと自分には会話を終わらせなければいけない事情がある、ということ伝ええると、相手も気持ちよく会話を終わらせることができます。

<どうやって使う？>

このストラテジーは、使うタイミングと言い方が大切です。タイミングは、相手の話が一段落ついたときが理想的です。相手の発話の途中に挟み込んで話をさえぎってしまうと、相手も不快な思いをします。また、相手の話に答えたうえでサインを出すことも重要です。スアンは「ベトナムと言えばやっぱりはすが有名よね」という相手の問いかけに対し、「そうですね」と反応したあとで、「あっ、私そろそろ行かないと」と言っています。相手の発言に反応したうえでさしはさんでいるので、相手に不快な思いをさせる可能性も低くなります。また、自分のターンのタイミングでうまくさしはさめば、相手の話を遮ることもありません。ほかに、「そろそろ行かないと」の前に、スアンのように「あっ」というと、会話に夢中になっていたが、次の用事を思いだしたという、自然な流れを作り出すことができます。

言い方はスアンを参考に穏やかな印象を与えられるように言ってみましょう。相手が楽しく話しているときに会話を終わらせるのは、相手にとっては心外なことかもしれませんので、やさしい言い方ができるといいと思います。

<もう一歩> 会話を意識的にコントロールする

日本語のレベルアップというと新しい語彙や表現、文法を学んだりすることをイメージする人も多いと思いますが、会話をどのぐらい意識的にコントロールできるか、というのもレベルアップのポイントの一つです。

自分から話しかけて会話を始める、会話をうまく続ける、そして、自分が終わらせたいときにうまく会話を終わらせる、このようなコントロールが意識的にできるようになるといいですね。会話を意識的にコントロールするためのストラテジーは、#01「質問をして相手に話してもらう」、#05「共通の話題を見つけて話しかける」、#07「今考えている」ことを相手に伝える」、#08「相手に確認しながら話す」、#09「効果的にあいづちを打つ」などたくさん取り上げていますので、参考にしてください。